

編集後記

「科学」といえば、対象とする現象を客観的に扱うもの、と考えるのが普通です。トレーニング科学の分野でも、これまではできるだけ主観を排除し、客観的に扱える現象だけを選んで研究が行われてきました。

しかし、身体運動によって成り立つスポーツの現場で、常時用いられているのは主観です。選手も指導者も自分の主観に頼って判断することが多く、両者のコミュニケーションもまた主観的な言語で交わされることが大部分です。

このようなスポーツの特殊性を考えると、客観的に扱える部分だけを切り取って調べるだけでは、十分な成果を得ることはできないでしょう。今後はむしろ、選手、コーチ、トレーナーなどの主観を、積極的に扱っていくことが重要だと思います。冒頭に掲載したバスケットボール選手の競技力評価に関する研究は、そのような試みの一つです。

トレセンでは、アスリートドック（人間ドックのアスリート版）というプロジェクトを続けてきました。様々な種目を対象に、従来からの視点だけに捕らわれずに選手の現状を評価し、有益なフィードバックをしようと努めています。今後とも各位のご支援をお願いいたします。

(山本正嘉 記)

平成31年3月31日 印刷

平成31年3月31日 発行

発行者 鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター

発行所 鹿屋体育大学

鹿屋市白水町1番地（〒891-2393）

Tel 0994-46-4922

印刷所 ㈱朝日印刷

鹿児島市上荒田町55-1（〒890-0055）

Tel 099-251-2191